

審議会委員による説明会で出された主な意見について

No	章	項目	意見概要
1	全体		福祉のところでヤングケアラーとか、子どもの権利条約もそうだが、言葉の認知度、理解されている方が少ないと思う。
2	第1 基本構想策定の背景	(3) 現基本構想に基づいた区の取組の振り返り	10年前に同じような取組をされたということで、その評価の部分で一体何がうまくいかなかったのか、そういった部分がちょっと分かりづらい。10年間にこういうことをしたが、やっぱり駄目だったという部分が、もうちょっと区民に分かるようになってくればいいと思う。
3	第1 基本構想策定の背景	(3) 現基本構想に基づいた区の取組の振り返り	理想論、抽象論としては非常にごもつともだが、行政に対する指針なので、現状の不備を分析してそれに対応する、改善する、そういうものでなければ意味がないと思う。そういう考え方は取らないのか。根本的な基本構想の目指すもの、実際に実効を上げるつもりがあるとしたら、どのようにできるのか。
4	第1 基本構想策定の背景	(4) 区を取り巻く環境変化と対応	③のSDGsだけは、抽象的過ぎると思う。阪急、阪神、東急では「SDGsトレイン」というのを実際に走らせて、SDGsの項目を全部ここに言い当てて、電車そのものがSDGsになっている。例えば、杉並の特色として、すぎまるがあるので、この内容を入れるとか、もしくはラッピングをして走るなど、杉並はまさにSDGsを始め出したのだとか、そのような特色を出すようなこともあってもいいのかもしれない。少し具体的に落とすようなものを入れていただければと感じる。
5	第1 基本構想策定の背景	(4) 区を取り巻く環境変化と対応	SDGsはいい取組だと思うが、この基本構想からすると唐突感がある。そもそもSDGsはまだ全国民の認知度で言うとそんなに高くないという調査もあるので、もうちょっと説明するか、進んでいる自治体であれば、17の目標と160幾つのゴールについて、環境問題、エネルギー問題、人権問題などこの課題がこれに当たるといえるのをもうちょっと説明しても良いと思う。
6	第2 基本構想を貫く3つの基本的理念		「認め合い 支え合う」というのがトップにあるが、前区政もそうだったが、この10年間、「認め合い 支え合う」というのを否定してきたのが現区長である。区民といろいろな問題で、区が政策をつくり、それを住民に説明をして議論をするわけですが、住民がいろいろな意見を言うと、反対意見は聞かないというのが基本的な立場であった。こういう美しい言葉で言われても、今の区政が続く限り、基本構想というのは実現が非常に難しいのではないかと、美辞麗句にすぎないのではないかと、いろいろな困難を抱えて区に対して物を言っている人間は、そのようにしか捉えられない。
7	第2 基本構想を貫く3つの基本的理念		基本構想は10年の大きな流れ、「羅針盤」と書いているが、そういったものであればこそ、長い年月の中で一番大事なのは、これから育てていく子どもたち、一人ひとりの人間である。これから育てていく子どもたちや若者たちがいかにこの杉並を愛せるか、日本を愛せるかということが、「共に認め合い、みんなで作る」という、そういうことの全ての基本になっているように思う。いかに子どもたち、若者が主体性を持ち、生きていてよかった、生まれてきてよかったと言えるような社会をつくっていくということ、どうにかして分かってもらおうような文言を載せて答申に出していただきたいと思う。それを基本にすれば、おのずと人を大事にすることとか、そういうものにつながっていき、社会の在り方、教育の在り方というものになっていくのではないかなと思う。
8	第3 杉並区が目指すまちの姿		目標として「みどり豊かな 住まいのみやこ」はすごくいいキャッチコピーだと思う。これを全国、東京都に広めるには、「住まいのみやこ杉並」と、最後に「杉並」という言葉を入れる良いと思った。
9	第3 杉並区が目指すまちの姿		キャッチコピーについて、違和感がある。杉並区は記載があるように、住宅街で、言わばサラリーマンのまちである。非常に個別的であって、住まいというのは一軒の家ということである。一軒の家ではなくて、ここで書かれていることはつながりたいと言っている。言わば一軒の家の中に閉じ籠もらないでということの中で一生懸命言っているにもかかわらず、出てきたキャッチコピーが住まいになってしまうと、企業の宣伝のようである。そうではなくて、それを破る、その庭を突っ切る、あるいは壁を破るということ、ここを言いたいにもかかわらず、なぜ住まいが出てきたのかということがよく分からない。もしそのようにキャッチコピーを書かれるのなら、前のほうがただただ書いていただければ、中身はよく分かるので、もう少し何かを考えていただけたらありがたい。
10	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「防災・防犯」分野	政府が挙げて取り組んでいる、「国民保護」といった言葉もないと思った。

No	章	項目	意見概要
11	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「防災・防犯」分野	「犯罪が起りにくい、犯罪を生まないまちをつくる」とあるが、犯罪者と関わって更生を手伝っている保護司は、平成28年に再犯防止法ができ、その再犯防止に関して、誰一人取り残さない社会ということで社会を明るくする運動をずっと繰り返し広げており、再犯防止についてどのように取り組まれていくのか。犯罪者が更生するというときには、地域の力が必要になるが、再犯をさせないためにどのように取り組むか考えなのか聞きたいと思った。
12	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「防災・防犯」分野	「みんなで支え合い、いのちを守り、暮らしを続けられるまちをつくる」という中で「区民、民間事業者、NPO等の幅広い地域の担い手を結集し」とあるのですが、災害は休日にかかるか平日にかかるかというのは、誰も選ぶことができないので、両方を想定しなくては行けないが、もう少し区の職員の方たちがイニシアチブを持って活動するというをずっと思っていて、「災害時の拠点となる震災救援所の機能の拡充や備蓄物資の充実」というのも、非常に大事なことだが、この中で区の職員の方たちがどのように関わっていくかをきちんといろいろ示してほしいと思った。
13	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	魅力的なまちづくりや地域というところで、例えば阿佐ヶ谷駅の辺りなどは、今はタワーマンションがぼんぼんと建っている。駅前に大きなお店などがなければ、他から人が来るわけではなくて魅力もない。このように魅力のないまちに変貌しつつある。商店はシャッター街になっていき、それに対してどうしたらいいかという具体策が見られない。
14	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	現基本構想では、「荻窪駅周辺のまちづくりと多心型まちづくり」ということで、「南北分断の解消と都市機能のさらなる強化を図ることにより、杉並の『顔』としてのまちづくりを積極的に推進します」となっており、今回の答申案では、そういった部分が多少弱くなっている。「基盤整備等の機会にあわせて、駅周辺の特色や魅力に応じた商業活性化や」などといった文章になっており、抽象的にならないぐらいの何かを入れてもらいたい。
15	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	取組の方向性の中で(1)に、交通拠点となる区内18駅、駅周辺のことについて触れられているが、これが荻窪駅周辺のまちづくり構想に匹敵するのではないかなと思うが、荻窪駅は既に先行してまちづくり構想やまちづくり方針も出している。そして、都市総合交通戦略も出ており、濃淡が全然違うものなので、その辺りをのみ込んだ上での文章かどうか。この文言を見ると、ネクストステージではなく、バックステージに行くのではないかなという感じがした。
16	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	荻窪の最大の課題は南北分断と回遊性の欠如ということで、現在、荻窪駅開業130周年の写真展をやっているが、その頃から南北の分断は起きている。戦後の複々線化のときもそうであるが、そんな中においてM a a Sのことが書かれている。M a a Sをどのように捉えて、今度荻窪に活用していくか。一つの例は品川駅の国道を横断するものについて、国がきれいなビジョンを描いているが、ああいうことを夢見ていいのかな。
17	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	基本構想の中には「都市計画道路の整備」という文言が3か所ぐらい出てきており、都市計画道路はもう決定済みのことだという下に書かれている文章だなと読んだ。杉並区には高円寺とか、阿佐谷とか、西荻窪とか、そのほか都市計画道路が幾つかあるが、西荻窪の132号線の沿道に住む者の立場からの発言になってしまうが、この都市計画道路については住民の合意という点では本当に得られていないと思う。以前、区長選挙のときに、高円寺の227号線の都市計画道路について、区長は住民の合意を得なければやらないと選挙の中で言っており、高円寺の都市計画道路はその後凍結されている。そういうことから鑑みて、西荻窪とか、阿佐谷とか、ほかの都市計画道路のほうも住民の合意を得ることが最大の前提になるのではないかなと思う。この審議会の中で、都市計画道路のことについてどういう議論がされて、どういう立場でもう決定済みのことというように受け取られるような文言が書かれているのか。審議会の中では反対の意見とか、そういうものは出なかったのかな。

No	章	項目	意見概要
18	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	これまで杉並区は、武蔵野、吉祥寺と中野に挟まれて埋没しないようなまちをつくりたいということ saying してきたが、その中心は大きなビルをつくらたりすることがまちづくりだと言っているような気がする。それは大変大きな間違いではないかと思うが、特色あるまちづくりということ を本当に考えていく必要があると思う。木曾の馬籠などでは、古い土地をそのまま生かして今、観光地として繁栄をするような形になっているが、そういう経験も踏まえて杉並区のまちづくりを考えていかなければいけないのではないかと。 132号線の道路の問題が出たが、西荻窪駅の南側のごちゃごちゃした小さい店がいっぱいあるわけで、そこを潰して大きな商店街が入ったタワーマンションをつくるために、広い道路が必要なのだということがだんだん見えてきている。そうすると、そんなに大きいタワーマンションをつくって、結局どこに行っても同じようなまち、同じようなビル、同じ商店が入ったようなまちになってしまう。これは本当の人が住むまちづくりなのかという疑問を感じる。西荻窪の骨董を中心としたまちづくりというのは非常に大きな価値のあるまちだと思うので、そういうことに対するまちづくりという視点でどのような討議がされてきたのかということ、人の住むまちづくりというのを特に強調したいが、その辺りについて聞きたい。
19	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「福祉・地域共生」分野	「8050問題」など、ひきこもりの問題等々もあると思いますので、これに対してどう取り組むのかといった疑問を読んでいて思った。
20	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「福祉・地域共生」分野	地域共生と福祉とICTのイメージが湧かず、分かりにくいではないか。
21	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「福祉・地域共生」分野	ケアラーの問題が出ているが、今一番大きな問題になっているのはヤングケアラーの問題である。この存在は、杉並区でも相当あると思うので、これは今後教育の問題でもあるし、福祉の問題でもあるので、その問題にどのように対応していくのが一番大事ではないかと思う。そこについて、何らかの検討がされたのかどうか、されたのであればどういう方向で進むのか。
22	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「子ども」分野	「子育てを地域社会で支える取組の充実」とあるが、「子どもの成長を支え親子の健康を守る取組や、保育園・学童クラブ」と、「児童館」が消えてしまった。現実に児童館があって、子どもたちは児童館を大事にして暮らしているが、何でここで児童館が消えたのか。「等」と入れるならば「保育園・児童館等」ではないか。
23	第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「学び」分野	人生100年時代に向けていろいろな対策が取られるとは思いますが、子どもたちが100年まで安心して暮らせるようなものをどうやってつくっていくのかということ を考えたときに、金融リテラシーの教育がなかなか見えてこない。このような部分を小さい頃からしっかりとやらないと、100年といっても絵に描いた餅にならないかと思った。
24	第5 区政経営の基本姿勢	新たな協働のかたちをつくる	防災・防犯のところで、一人ひとりの力を生かすとか、地域の絆を深めるということが書かれているが、そういうものが機能すればもちろん良いが、現在は地域との関わりを持とうとしない区民がかなりの割合存在する。町会などには入らないし、そういう割合がかなり多いことを認めた上で、方向性を考えなくてはならないのではないかと。新しい協働の方向性について、その辺に対応する考え方があるのか。
25	第5 区政経営の基本姿勢	新たな協働のかたちをつくる	過去、角川庭園の協働事業をどうやってやっていこうかということで、区役所と随分話をしたが、どうしても話が委託関係になりやすく、私は協働課を設けてほしいということ を申し上げた。係ではなくて課としてやってほしいと申し上げたら、一回協働課になった。課になって、そこで皆さん職員に協働という考え方を定着させなければいけないということで、いろいろな研修などをやったが、杉並区の協働という考え方が課によって随分ばらばらであった。最終的にそれが統一されないままに、今は係になっているので、協働課を復活させてほしい。
26	第5 区政経営の基本姿勢	新たな協働のかたちをつくる	協働について、行政の一部署とNPOとの協働でしかない。もうちょっとオープンに、まだ行政内で課題が共有できていないというのがあり、行政内でできることがもう少しあると感じたので、その辺の新しい協働を進めていただければと思う。
27	第5 区政経営の基本姿勢	新たな協働のかたちをつくる	新たな協働というところで、クローズの協働からオープンな協働にというのはすごく良いと思う。協働というのは決まり切った人たちだけが集まってクローズにしないで、もっとオープンにしてほしいと思っている。

No	章	項目	意見概要
28	第5 区政経営の基本姿勢	デジタルにより誰もが暮らしやすい社会に	ICTは非常に重要なのですけれども、一番重要なのは、区という立場からすれば、インタラクティブだと思うので、ネットワークで区民間でいろいろやることはある。でも、区という立場からしたら、住民と区という意味でインタラクティブだが、それが今、この区は物すごく足りない。あるいは日本全体もそうである。この中に「インタラクティブ」という言葉はないので、そここのところをもう少し何か書き込むと良いと思う。
29	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	財政のところ、(1)に「健全な財政運営に努めます」とあるが、もちろん自治体ですからそうなのだけれども、誰も取り残さない上大段に言っているわけで、○の2つ目の「受益者負担の適正化に努めるとともに、区民サービスの向上を図っていきます」というところに大変引っかけた。もちろん財政的なことはあるのだと思うけれども、高齢者が健康で長生きしたいと思っているわけなので、区民センターなど、この間ずっと費用も高くなっている。ここに「受益者負担の適正化に努める」という文言が入ったということがどういう意図なのか。
30	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	私自身も後期高齢者の一歩手前で、子どもが精神障害を患っている。区の中で今のところは親も元気なので安定して暮らしているが、26ページのこの負担がどうなってしまうのだろうと、ここに書かれているけれども絶対に値上げとかいろいろ負担になってくるのではないかとという危惧があるので、その辺を明確に表現していただきたい。
31	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	今回の基本構想が承認されて実行されていくというところになると、それを担っていくのは区の職員なのかと思う。その人たち自身が生き生きしてやる気を持ってこの計画を実行に移していけば、すごくいいものとして身になっていくのではないかとと思うが、そういった区の職員の評価であったり待遇、そういったところについて、育成については触れられている部分もあると思うが、何か議論があれば共有してほしい。いい仕事をされるのであれば待遇面でもいいお給料をというのには良いのではないかとすごく思っていて、そういったことを今までの慣習にとらわれず変えていこうみたいな議論がもしあったら共有いただきたいと思う。
32	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	こういうものをやっていることは知らなかったし、家族に聞いても誰も知らなかった。区民が知る必要もあると思う。なぜ知らないのかというと、自分が関係ないからだと思うので、自助、共助、公助といったときに、区民にはこういうことが期待されているということが分かるような戦略的な広報をお願いしたい。
33	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	この基本構想は羅針盤になるようなものなので、正解はないという認識である。その中で、区民目線で情報を発信するという点で、区民の方もそうだが、区外の方の意見を取り入れながらやるということも必要と思う。その意図があれば、実際にこの答申案の中に入れていただけたほうが分かりやすいと思うし、そこが発想としてないのであれば、ぜひそういった方々の意見も入れていただければと思う。
34	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	杉並区の権限や業務など、いろいろ難しい課題がある。区でなくて杉並市を目指すというような、大きな将来に対する目標を掲げることはできないのか。
35	その他		杉並は住まいの人たちが変化している。自分より少し上の世代の方たちが亡くなられて、大きなお屋敷に5軒、6軒とおうちが建って、子どもも増え、学校の子どもたちもふえている。働く人たちや、そういう杉並区の人口構成がこういう基本構想を出されるときに、10年間にどのように変化しているのかという資料を出していただくと良いと思った。
36	その他		ここでずっと書いてある100年時代というのと同時に、あと20年たつと大変な老人ばかりがいて、それも独りで暮らしているというのが多くなる。世界中どこでもそうだが、老人問題は大変であるにもかかわらず、なぜここに老人というアイテムがないのが不思議である。子どもというのはあるし、高齢化社会に関するいろいろな対策なりいろいろな提案がこの中にある。ここへ書かれたことを老人という横串で補助の資料をつくっていただけるとありがたい。そうすると、杉並区は老人に対してどんなことをするのだということが分かると思う。ここには、いろいろところで老人に対して、健康のためだとか、やれウエルフェアだ何だがあるので、しっかり書いていただけたらと思う。
37	その他		公表の仕方あるいは共有のされ方という意味で、口頭で説明のあったところを何かしら含めたほうが良いと思う。今ある言葉はすっきりまとまっていて、間違っていないが、物すごくすっきりし過ぎてそこが見えない、分からない、伝わらない気がして残念な気がするのと、そこを配慮すると、こういう話を聞いていない人が初めて読んだときに、これこれこういう経緯でこうなったのだという話になると思う。